元気山口

「技能五輪」（とび職種）銅賞

㈲栗栖工業 佐々木 辰也さん

リベンジ誓って努力 大会で結果残せ安心

【防府】昨年10月、愛知県で第52回技能五輪全国大会が開催された。同大会は、青年技能者の技能レベル日本一を競う技能競技大会で、23歳以下の技能者が日ごろの鍛錬の成果を競い合い、さらなるレベルアップを図る場として、昭和38年から毎年開かれている。その大会のとび職種に出場した栗栖工業の佐々木辰也さん（23歳）が銅賞に輝いた。

そこで、大会での感想や競技課題などについて苦労した点などを聞いた。

―今回の成績は。

社長やたくさんの先輩から応援されていたので結果が残せて良かった。前回の大会では、緊張して頭が真っ白になって固まり、気がついた時にはかなりの時間を失っていた。午後からの競技でもさらに焦るなど失敗の連続だった。その悔しさから、今大会へのリベンジを誓って努力してきた。練習の成果を出せれば金賞を狙える自信があったが、会場の雰囲気に飲み込まれて緊張し、雨の中での作業で思わぬミスが目立ち、入賞したことが信じられなかった。

―大会までにどんな準備を。

工具の手入れなども念入りに行い、予備も用意して万全を期して大会に臨んだ。時間を計っての通し練習は、日曜日に2回と大会前の5日間で計7回しかできなかったが、自分なりの工夫で制限時間内での完成が確実にできるようになったので入賞の自信があった。

―競技課題で工夫・苦労したことは。

登り桟橋では、斜材にころばしを固定する場合と柱に固定する場合の2通りを検証し、クランプの位置と足場板が干渉しないか、勾配は揃っているかなど細かい調整に苦労した。作業手順についても、安全性と作業効率を考え、注意事項を厳守した最短の手順を考えるのに苦労した。時間配分では、前半でどこまで作業を進めることができるのか、午後からのペース配分などでとても悩んだ。

―現在の仕事は。

作業主任者を取得して以来、小規模な現場の責任者として従事しているが、まだまだ先輩から多くのことを学びながら日々勉強している。

―手掛けた仕事で印象に残っていることは。

広島県廿日市市のガスプラントの現場が特に印象に残っている。そこでは初めて責任者として作業指揮したが、頭が真っ白になり作業が進まなかった。

―今後の目標は。

一級とび技能士の資格を取得し、大きな現場を任されてもいいようにいろいろなことを覚えたい。また、あがり症を治し自信を付けたい。

＝佐々木さんの横顔＝

平成23年に栗栖工業に入社後、25年には二級とび技能士を取得。26年に行われた第2回山口県技能競技大会とび職種に出場し金賞を受賞して県知事表彰を受ける。また、足場の組立、型枠支保工、鉄骨の組立等作業主任者、職長・安全衛生責任者などの資格を持つ。平成3年12月16日生まれ。山陽小野田市在住。

―・―・―・―

【会社概要】

㈲栗栖工業▽本社＝山陽小野田市中央3―7―13▽創業＝昭和60年9月▽代表取締役＝栗栖龍男▽事業内容＝とび工事全般（足場仮設工事、機械器具据付工事、鉄骨工事、橋梁架設工事、防護柵施工）など。平成26年11月、若年技能者の育成と技能向上に取り組むなど技能振興に多大な貢献をしたとして技能振興関係事業所（山口県知事表彰）を受賞。